

広報

もり 中部の森林

写真：「金華山国有林から眺める夕日」(岐阜署管内)

特集

- ・木を使うスポーツ「クubb(KUBB)」始めました
- 各地からの便り
- ・林政記者クラブが無花粉スギの取組などを視察
- ・伊那市議会等による現地視察 ほか

シリーズ

- ・森林官からの便り、私の森語り、中部の保護林、秘蔵写真・今は昔の林業

私の森語り「想いをつなぎ、心豊かな共感社会づくりを目指す」
株式会社エスウッド 代表取締役 長田剛和



林野庁中部森林管理局



2023/No.237

木を使うスポーツ「クツス (KUBB)」始めました

スウェーデン生まれのクツスは、決められた場所に配置した複数の木片に向かって、下手投げで木棒を投げて倒すゲームで、年齢や体力を気にせず楽しめる対戦型のスポーツとして親しまれています。

中部森林管理局では、今年度から終業後に局庁舎の中庭においてクツスの練習を始め、経験者が初心者にもルールや戦術を伝え、長野県職員との合同練習会を行うなど、交流の輪が広がっていますので、ご紹介します。



局で研修を受講していた各署職員も練習に参加

- 使用する用具
- クツブ(木片) 十個
 - キング(大木片) 一個
 - カストピンナ
 - (木の丸棒) 六本
 - コーナーピンナ 四本



クツブは、サイドライン八メートル、ベースライン五メートルのコートで行い、センターラインから手前が自陣、奥が相手コートとなります。コートは四隅にはコーナーピンナを立て、コート中央にキングを置き、それぞれのベースライン上に五個のクツブを等間隔に立て、準備完了です。

チームの人数は原則六名、先攻後攻を決めて、ベースラインより相手コートにクツブをめがけ、順番にカストピンナを投げて倒していきます。一度の攻撃で投げられるカストピンナは、一巡目に先攻チーム二本、後攻チーム四本、二巡目からは六本ずつとなります。相手に自陣のクツブを倒されてしまった場合は、ベースラインから相手コートに倒されたクツブを投げ入れ、新たな標的とします。

そして、そのクツブを倒さないとベースライン上のクツブを攻撃することはできません。更に、そのクツブを倒すことができず、相手コートに残っている場合、相手チームはクツブの立つ位置まで前進し、カストピンナを投げる事ができます。

相手のクツブを全部倒し、最後にキングを倒したチームが勝利しますが、試合の途中でキングを倒してしまったチームは、その時点で負けとなります。また、制限時間を設けて試合する場合は、後攻チームの攻撃終了時点で自陣にあるクツブの数が多い方のチームの勝ちとなります。

十月十四日、長野市内の公園において開催された中部局クツブ大会(合局長杯)には、練習を積み重ねた選手の姿がありました。大会には、長野県庁、林野庁、関東森林管理局、森林整備センターの方々も参加され、合計十四チームが四コートに分かれてカストピンナを投げ合い、優勝を目指しました。参加選手や応援者が見守る中で行われた決勝と三位決定戦では、



勝負の行方を見守る参加者



念を込めた一投



クツブで広がる交流の輪

見事なプレーやチームワークに歓声が上ががり、多くの笑顔の中で充実した一日を過ごすことができました。

木の感触、木と木が当たった時の音、戦術などのゲーム要素もあり、仲間と成功を喜び合い、失敗しても「惜しい」と笑い合える、そんなクツブの魅力を多くの方に体感していただきたいと思えます。

【中部森林管理局広報】

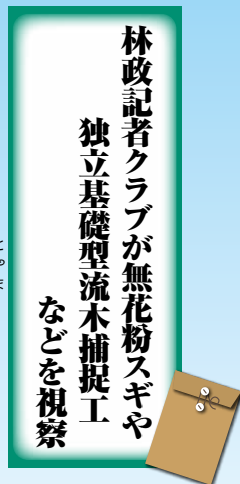
**林政記者クラブが無花粉スギや
独立基礎型流木捕捉工
などを視察**

【名古屋事務所・富山森林管理署】

十月十日から十一日の二日間、長野・名古屋の林政記者クラブ合同で、富山署管内での国有林野事業や富山県の取組などについて、視察を実施しました。

初日は、富山署にて署長から管内概要や、庁舎新築時のコンセプトとして取り入れた富山市西部の散居村に多く見られる古民家様式の「あずまだち」などの説明後、富山県森林研究所に移動し、図子副所長から優良無花粉スギ「立山森の輝き」の開発や苗木の育成方法等についての説明を受け、育苗中の苗畑を案内していただきました。令和四年度に、富山署管内においても約一万二千本の「立山森の輝き」を植栽しています。

その後、片貝国有林に移動し、令和二年度に完成した東又谷の「独立基礎型流木捕捉工」について、片貝治山事業所の治山技術官から説明を受けました。



捕捉工の効果やメンテナンスについて確認する様子



無花粉スギの取組について説明を受ける様子

二日目は、ブナ坂国有林の「立山室堂」において、立山森林官から、国有林野保護管理協議会（地元関係自治体・山小屋関係者等と富山署で構成）により、五十一年にわたり取り組んでいる、高山植物等保護パトロール活動（通称グリーンパトロール）について説明を受け、日本最古の山小屋「室堂小屋」や、現在も火山活動中の「地獄谷」の火山ガスの影響による周囲の植生の衰退等を視察しました。

また、立山黒部アルペンルート沿いでは、道路開設における荒廃地の植生復元のために植栽されたミヤマハンノキが過剰な成長をし、景観や安全上の問題に加え、在来植物の生長の妨げとなっており、「国民参加の森づくり」として協定を締結した富山地区のボランティア団体「NPO法人きんたろう倶楽部」により除伐作業を行った箇所を視察しました。

参加した記者からは、五月に閣議決定され、取組の加速化が急務となっている花粉症対策の最先端の研究や、国有林の流木対策や現



圧倒的な存在感で人々を魅了する立山の山々

地の状況について、今後の課題も含め、実際に見ることができ、参考になったとの感想が寄せられました。

二日間を通じ、記者の皆様には、スギ花粉発生源対策や、林野庁が行っている各種取組への理解を深めていただいたことと思います。



植樹と保護材を設置する様子

南木曾町と合同植樹祭を開催

【南木曾支署】

十月六日、当支署の柿其国^{かきぞれ}国有林において、南木曾町との合同植樹祭を五年ぶりに開催しました。

当日は、木曾地域振興局の林務課長を来賓として迎え、町議会議員、地元官公署、林業関係者、南木曾小学校五年生みどりの少年団

など、九十六名が参加し、開会式では、みどりの少年団から「これから安心して暮らせる緑豊かな環境を守り育てる」と、緑の宣言が行われました。

植樹作業は約一時間の日程で進められ、二人一組でスギのコンテナ苗を二百本植えました。また、新たな試みとして、ニホンジカなどからの食害防止として、単木保護材の設置も併せて実施しました。

参加者からは、「植樹本数は少なかったが、保護材の設置はやりがいがあった」「植えるだけでなく、これからの保育の始まりで、大変だと感じた」などの感想がある中、「保護材の支柱立ては、地面が硬く、非常に苦勞した」「保護材の設置は、思ったより時間を要した」など、初めて試みた作業についての意見もいただきましたが、無事に終了しました。

豚熱、コロナ禍により、毎年開催していた植樹祭を中止していましたが、五年ぶりの開催を通じて、南木曾町との協力連携がさらに強くなったと感じています。



緑の少年団の皆さんと記念標柱の建立

「第七十三回長野県植樹祭」が飯山市で開催

【北信森林管理署・技術普及課】

十月十四日、飯山市の戸狩温泉スキー場にて、「令和五年度北信州森林祭・第七十三回長野県植樹祭」が開催されました。

式典では、阿部長野県知事より主催者挨拶、江沢飯山市長から歓迎の言葉が述べられたほか、今泉局長からは、「森を育てる時代から、伐って植えて育てる時代へと



子どもたちと植樹する今泉局長

変化し、こうした国民参加による緑化事業がより一層大切である」と、参加された皆さんへ感謝の言葉とともにメッセージを送りました。

式典後は、秋晴れの下、地元の緑の少年団をはじめ、林業関係者など、約百五十名の参加者によって、植樹会場のゲレンデに、合計五百本のブナとミズナラが植えられました。

子どもたちからは、「土が硬くて大変だけど楽しい！」との声もあり、大人も子どもも一緒になって心地よい時間を過ごしました。

この苗木が、北信州の深い雪に耐えて大きく成長し、地域の皆さんに愛される景観を創り出すことを切に願っています。

熱田区区民まつりで
木工体験コーナーを実施

【名古屋事務所】

十月八日、熱田区区民まつり(にぎわい秋まつり)が開催され、当事務所も木製お絵描きプレートやキーホルダー、ミニいすづくりの体験コーナーを「熱田白鳥の歴史館」において実施しました。

区民まつりは、名古屋国際会議場に隣接する白鳥公園(旧白鳥貯木場)から白鳥庭園周辺を会場とし、にぎやかゾーン(街道宿場市)、キッズゾーン、働く車ゾーンなど、それぞれのゾーンにおいて多彩な催しが行われ、終日賑わいをみせました。

当日は、局次長(名古屋事務所長)をはじめ、愛知森林管理事務所から職員二名、また、近くに住まいのOBがお手伝いに来てくださるなど、総勢七名で対応しました。

あいにくの雨模様でしたが、名古屋市交通局が当事務所駐車場にて「お絵描きバス」を実施した効果もあり、大勢の親子連れが当歴史



親子で楽しむ木工体験

館を来館されました。

子どもたちは、ヒノキの輪切り板を受け取り、それぞれ思い思いに絵付けをし、好きな色の紐を結んでキーホルダーが完成。ミニいすづくりは、三十二名限定でしたが、毎年訪れて作製するのを楽しみにされている方もいらっしゃるなど、盛況のうちに終了しました。今後、名古屋における木材産業発祥の地である旧白鳥貯木場と「熱田白鳥の歴史館」が、より一層地域に理解されるよう情報発信に努めていきたいと思えます。

定光寺でのボランティア活動

【愛知県事務所】

十月十一日、愛知県瀬戸市瀬戸国有林の定光寺自然休養林内にある「森林交流館」周辺において、名古屋造林素材生産事業協会 愛知支部と名古屋林業土木協会 愛知支部共催でボランティアによる草刈り作業が行われました。

両支部は毎年、当所が主催するごみゼロ活動に併せてゴミ拾いと草刈り作業を実施されており、今年度は六月二日に予定していたところ、前線の影響による大雨が懸念されたことから活動は延期となりました。

実際に、六月二日から三日には記録的な大雨となり、東海地方において河川の増水による浸水等が甚大な被害が発生しました。

今回、改めて活動していただいた定光寺自然休養林は、都市近郊に位置し、最寄り駅からのアクセスも良く、地元市民のおさんぽコースやハイキングコースとして親しまれています。



ボランティア活動にご協力いただいた方々

秋の行楽シーズンとなる絶好のタイミングで草刈り作業を実施いただいたことで、訪れる利用者が快適に散策等を行えるようになりました。また、当所管内ではゴミの不法投棄が大きな問題となっていることから、今後も両支部と連携し、530活動を継続していきたいと考えています。



戸隠の秋を観察



遊歩道までウッドチップを運搬



ウッドチップの袋詰め



ボランティア活動後に訪れた秋の鏡池



木道の清掃作業

企業や団体による
ボランティア活動を実施



【北信森林管理署】

十月十三日、株式会社ドコモCS長野支店によるボランティア活動が、長野市の戸隠山国^{とがくしやま}有林内にある戸隠森林植物園内において実施されました。

約二十名の社員の皆さんが、社会貢献活動の取組の一環として、国有林の環境保全に向けた取組に寄与することを目的に、遊歩道や木道、戸隠神社の奥社参道の清掃活動や整備作業を行いました。

遊歩道へのウッドチップの敷設作業では、環境省のオフィシャルパートナーである旅行会社（ベルトラ株式会社様）からご提供いただいたウッドチップを袋に詰めて一輪車に載せ、鮮やかな連携プレーで運搬し、遊歩道に敷き詰めさせていただきました。

作業終了後には、NPO法人戸隠森林植物園ボランティア会のガイドにより、ウッドチップを敷いた遊歩道を歩き、チップを踏んだ

時の感触や整備状況などを確かめながら、みどりが池から鏡池までの自然散策を楽しみました。

鏡池に到着すると、眩しい陽射しと美しく輝く水面が皆さんを出迎え、ボランティア作業をやり遂げた達成感と充実した疲労感が漂っていました。

また、十月二十六日には、長野林業土木協会北信分会の方々によるボランティア活動が、戸隠森林植物園内において実施されました。

当日は朝から冷え込み、肌寒さが残る中、協会の皆さんは、園内の木道清掃や遊歩道の規制ロープの整備作業等を実施していただきました。特に、木道に張り付いてしまった落ち葉や枯れ枝等の清掃をほうきやデッキブラシを駆使して行い、秋の紅葉シーズンを楽しむ利用者が歩きやすい、安全で快適な木道にさせていただきました。

ご協力をいただきました皆様方に、心より感謝申し上げます。

近隣市町村職員に向けた
無人航空機操作講習会を開催

【森林技術・支援センター】

十月十八日、下呂市あさぎり体育館において、ドローン操作の初心者等を対象とした無人航空機操作講習会を開催しました。

この講習会は、令和三年度より毎年開催しており、今回は近隣市町村職員二名が出席し、飛行技術や活用方法などの習得を目指しました。

ドローンは、林相や災害発生現場の確認、地形測量など多岐にわたって活用されていますが、その使用にあたっては、機器に精通した者に偏っているとともに、操作に係る各種法令や手続き等も限られた職員のみが把握している実態にあります。

当センターでは、今後、さらに有益で効率的なドローンの活用を図る観点から、より多くのドローン操縦者の育成が急務であるため当該講習会を実施しており、講習では無人航空機の関係法令、基礎知識、操作方法等の座学の後に、



パイロンを目印とした正確な飛行操作や搭載カメラから送られてくる画像の確認などの実習を行いました。

出席した市町村職員からは、「今回初めてドローンを操作したが、今後の業務へ幅広く活用できると感じた」「ドローンは少し操作したことがあったが、操作には慣れが必要で、講習会に参加してよかった」といった感想が寄せられました。

当センターでは、今後も積極的に市町村等職員を交えた講習会を計画していきたいと考えています。



ドローンを操作する受講生

米子大瀑布のお隣元で
高山植物等
保護強化パトロールを実施

【北信森林管理署】

十月二十三日、日本の滝一〇〇選で有名な米子大瀑布が映える米子山国有林周辺の遊歩道において、高山植物等保護対策協議会北信地区協議会主催による高山植物等保護強化パトロールを十五名の関係者により実施しました。

当日の大瀑布周辺は、紅葉の景観を迎え、駐車場が満車状態となるほど多くの方々が訪れる中、協議会会員や各関係機関の参加者が中心となり、来訪者とふれあいつながりながら、時にはガイド役にもなり、高山植物保護パンフレットを配布して活動の重要性をPRするとともに、遊歩道や周辺のゴミ拾い等の美化活動を行いました。

本パトロールはコロナ禍の影響もあり、久しぶりの実施でしたが、今後とも管内各地において地道なPRや啓発活動を通じ、高山植物等の保護に努めてまいります。



紅葉シーズンを迎えた米子大瀑布



来訪者にパンフレットを配布

保護林管理委員会を開催

【計画課・東信森林管理署】

十月二十四日及び二十五日、東信署管内の浅間山国有林ほかにおいて、本年度第一回目となる保護林管理委員会を開催しました。

この委員会は、管内の保護林（八十六箇所・約十二万ヘクタを設定）の管理やモニタリング等について検討することを目的に、学識経験者等の九名で構成しています。



浅間山霧上の松希少個体群保護林における現地検討

今回は、昨年度実施したモニタリング調査の結果等を踏まえ、浅間山生物群集保護林及び浅間山霧上の松希少個体群保護林の区域の見直しに係る検討等を目的として、現地にて開催しました。委員からは、ニホンジカ被害対策やモニタリング調査の継続的な実施の重要性など専門の見地からのご意見をいただき、国民の財産である保護林を将来にわたって管理していくための有意義な会議となりました。



浅間山カラマツ希少個体群保護林における現地検討

森林ボランティア・

NPO連携推進会議を開催

【木曾森林ふれあい推進センター】

十月二十五日、二十六日の二日間、塩尻市の長野県林業総合センターにおいて、「森林ボランティア・NPO連携推進会議」がボランティア団体代表及び当センターによる実行委員会主催により開催されました。

この会議は、当局管内の森林ボランティア団体・NPO等が一堂に会し、研修、交流を通じて更なる資質の向上と連携強化を図ることを目的に毎年開催されていましたが、コロナ禍の影響で、中止や規模を縮小しての開催が続き、四年ぶりに二日間にわたる開催となりました。

今年度は、森林ボランティア団体等の六団体と当局管内の職員、併せて三十名が参加しました。

一日目は長野県林業総合センターの取組について説明を受けた後、「これからの連携推進会議について」をテーマに会議参加者が五班に分かれて意見交換を行いました。



参加者全員で記念撮影

どの班からも本会議を継続したうえで、一般の方に森林づくり等に関心を持ってもらえる活動を行うとはどうかという意見が出されました。
二日目は、同センター内でスマートフォンアプリを用いた木材の強度試験装置、森林整備・森林環境教育に関する貴重な資料や現地を見学し、連携会議は終了しました。
二日間を通して見識を広めることができ、充実した連携・交流の場となりました。